

創立147周年

学校便り



進取

令和5年度

No.9

令和6年1月22日発行

阿久根市立阿久根小学校
27学級 児童数439人

「次の学年の0学期」スタート！

校長 中村 一成

家族や親戚とテレビを見ながらお節を食べ、ゆっくりと過ごすお正月。そんな1月1日の夕方に突然飛び込んできた石川県能登地方を震源とした大きな地震。テレビ画面に「津波危険」「にげて！」の文字が繰り返し映され、胸が苦しくなったのは私だけではなかったのではないのでしょうか。200人以上の方が亡くなられ、また多くの方が避難所生活を余儀なくされています。こういう状況を知るたびに、普段の何気ない平穏な日々を過ごせることが、いかに幸せなことであるか、改めて実感するとともに、被災地の方々が、一刻も早く被害から復旧し、普段の生活を取り戻せることを願うばかりです。学校では、子供たちが天高く昇る竜のように飛躍の年となることを望みながらも、安心・安全を第一に考え、今回の天災のようにもしもの事態も想定し、危機意識をもって備えていきたいと思えます。

さて、2学期末はインフルエンザが大流行し、学年閉鎖等がありましたが、3学期は体調を崩す子ども少なく元気にスタートをきることができました。始業式では、2、4、6年生の3名の代表者が、「なわとびの新しい技への挑戦やかけ算九九を完璧にする」「早寝・早起きを心がける」「中学校に向けて、手伝いや整理整頓を自主的に」など今年の目標や3学期のめあてを発表してくれました。他の子供たちも、3学期が1年間のまとめと次年度への準備のための大切な学期であることを考えてそれぞれ目標を立てています。

私からは、3学期に全員で取り組んでほしいこととして「最後まであきらめない」「気持ちのよいあいさつ」「気付く目、気付く心を持つ」の3つを子供たちに伝えました。「最後まであきらめない」は、2学期までの様子を見てみると、「わからない」「疲れた」「面倒だ」など途中で投げ出してしまいう傾向のある子が見受けられたためです。やればできる力を備えているのに、もったいないと感じています。今までの学習や経験をもとに、自分の力で最後まで考え解決する力をぜひ身につけてほしいと思えます。「気持ちのよいあいさつ」は、2学期末の学校評価で保護者の方の反省としてあがっていた部分から取り上げました。あいさつは人と人をつなぐ第一歩です。学校ではもちろんですが、家庭や地域でもあいさつが広がるよう声掛けをお願いいたします。「気付く目、気付く心を持つ」については、自分自身が努力することも大切ですが、友達の良さに目を向けたり、困っている人にそっと手を差し伸べたりできる子供になってほしいという願いからです。そんな子供たちが増えれば、さらに阿久根小全体に笑顔があふれ、温かい雰囲気になっていくと思えます。

3学期は、「次の学年の0学期」として、その学年でできるようにならなければならないことや覚えなければならないことは、しっかりと身に付けて次の学年へ進めるよう、一日一日、一時間一時間を大切に過ごしてほしいと思えます。卒業式や3学期の修了式の日、全員が達成感と満足感をもって進学、進級できるように、職員一丸となって取り組んでまいります。ご家庭でも見守り、励ましをお願いいたします。